

---

# ようこそ！ ハート工場へ

かみたか さち

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

よつこせ！ ハート工場へ

### 【Zコード】

N7474W

### 【作者名】

かみたか さち

### 【あらすじ】

「ココたち一年生の校外学習は、ハート工場の見学です。え？ ハート工場ってどんなところか、ですか？」

それは、読んでからのお楽しみ

バスが、ハート工場に着きました。

「口は外を見たくて、つるるがわの席から首をのばしました。すると、まどがわの席のシン君が口のかたにぶつかってきました。シートにしりもちをついてしまった口は、シン君をじらみつけました。

「いつたあ。何するのよー。」

ところがシン君は、にべたらしくベロを出して、リュックをふり回すようにかづきます。

「あぶないじゃん！」

「さつせとおりない口が悪いんだ」

平気な顔をしてシン君はバスをおつると、はしゃいでいます。校外学習の行き先が決まった時には、

『オレ、口の前行つたばかりだし。つまんないの』  
と、せんせんもんくを言つていたのに、です。

ふくれつ面で、口はみんなに続いてバスをおつみました。  
温かなにおいの空気が、むねいっぽいに入つてきます。

「一年生のみなさん、ハート工場へようこそ」

ピンクのハートもようのシャツに、赤いハート型のスカートをはいたお姉さんが工場をあんないしてくれます。

ふわんふわんのハートがベルトコンベアにのつて、きかいからきかいへ運ばれています。口たち一年生はううかの大きなまどにはりついて、口を半分開けたまま見下ろしました。

「口では、やわらかいわたでつつんだ後、もう一度ぬのでつつみます。このハートの効き田は、さびしい人が開けると、ハートがふわん、ととけて温かく心を包んでくれて、幸せな気持ちになれることです。」

お姉さんが説明してくれました。

「口はまだ、時々こいつそりママにだっこしてもらいます。その感じを思い出して、ちょっとびりほっぺを赤くして、えへへ、と笑いました。

次の部屋では、さつきと同じようなハートが、ピンク色のはじや、きらきらしたハート型のピンにいれられていました。

ハートたちは、工場の人の両手の中でフルフルゆれています。なかには、はこに入る前につかひあがってしまい、工場の人があわてつかまえなければならないハートもあります。

「こちらの部屋のハートは、開けると、けっこんしたい相手が、ほわわん、と見えるんですよ」

「えー」

女の子も男の子も、きやあきやあ言って、先生にしかられました。でも、先生もなんだかうれしそうな顔をしています。

ビンに入ったハートを見ているだけで、口の頭の中に、背が高くて、かつこよくて、やさしくて、勉強がよく出来て足の速い、それから面白いことを言う王子様がうかんでくるようです。けれど。

「ニヤニヤして、キモ悪」

列のとなりのシン君のいじわるな声に、口の王子様はシャボン玉のようにパチリとはじめました。

むううとして、口はみんなの後についていきました。

「さあ、この先にあるのが、ハートショップです。毎日開いています。大きなハートだけでなく、このような小さいハートもありますよ」

お姉さんが「口」「口」と、リボンのかかつたふくろを見せてくれました。中には、いろんな色の小さなハートが入っています。

「この中に、同じ色のがふたつだけあります。それを食べたふたりは、なかよくなれるんですよ。この工場でつくられたハートは、このショップかネットでしか売られていません。みんなも今度、お家のシヨップかネットの人といっしょに来てくださいね」

「口の家からハート工場は、車でだいぶ来ないといけません。パ

パがお休みのとれ、連れて来てもいいのかな、と考えながらバスに乗りました。

先生が出発前に、少しならおかしを食べていよいよ、と言いました。みんなは、いそいそとリュックを探っています。

あまくていいにおいがバスの中にただよいました。

口も、急にお腹がすきました。でも、持ってきたおかしさ、べんとうの時間に全部食べてしまったのです。

残しておけばよかつた、と、口はまだまつて前の席の、せもたれを見ていました。

においがすると欲しくなるので、息をとめました。その口のひざに、口ロン、となにか落ちました。とめこのセロファンに包まれたグミのよつです。

「やるよ」

シン君が、まどの外を見ながら口のひざを押さしています。おかしをゆずってくれるなんて、そんなシン君は、シン君じゅないよつです。シン君がやさしいはずがありません。

グミは、すき通つたピンク色で、つやつやぷるるんで、とっています。

ながめていると、シン君が口をもぐもぐさせながら手をのばしていました。

「こらないなら、返せよ」

シン君の手がとじくまえに、口はせずばやくグミをつかみました。セロファンをむくと、少しつぶれたハート型のグミを、口の中に放り込みました。

むつとしたシン君が、またまどのまつに顔をむけて同じピンク色のグミをパクリと食べています。

口は、工場のお姉さんが持っていた小さなハートを思い出したり、じくと、とグミを飲み込んでしまいました。このグミはひとつして、なかよしになれるハートなのでしょうか？ そういうえばシン君は、家族でハート工場に来たばかりだと黙っていました。

うええ、と口を横に広げてベロを出した口でしたが、口の中には残ったさくらんぼ味がもつたいたなくベロをひっこめました。

やつと見ると、シン君はずつとまどの外を見ています。

口はかたをすくめました。おやつをくれたのだから、シン君もいじわるなだけではなさそうです。

バスが学校につくまでのあいだくらいは、なかよくしてやつてもいいか、と思いながら口は、広がる煙の向こうに小さくなつていくハート工場を、シン君<sup>じ</sup>に見続けていました。

(後書き)

ブログに、創作秘話載せてます。

http://ptbkiroku.blog107.fc2.com/blog-entry-498.html

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7474w/>

---

ようこそ！ ハート工場へ

2011年9月17日03時29分発行